平成２４年度評価シート（府立北野高等学校）

自己評価の基準		評価審議会評価の基準	
	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下		AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																	コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	言語活用力 ICT活用力	充実	プレゼンテーション能力の向上	「国際情報」における発表の参加人数	100%	文理学科1年 160人	100%	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 32%	参加者の 60%	参加者の 94%	A	充実	それぞれの取組に対する生徒の評価が前年度に比べ、いずれも高くなっている点は評価できる。今年度の成果と課題を検証し、次年度の取組の充実に活かしてもらいたい。 これまで以上の高い学力層の生徒が多く入学する中、生徒に高い目標を持たせつつ、生徒が自ら学習に取り組める３年間を見通した課題を与えるなど、知的好奇心をくすぐり、学習意欲を喚起してもらいたい。	A
			学力向上・自主的な学習習慣の定着	充実	宿泊研修の実施	参加人数	100%	文理学科1年 普通科1年 各160人	100%	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 83%	参加者の 90%	参加者の 93%	B	再編		
			きめ細かな学力の向上	充実	土曜講座の実施	参加人数	830人 （全校生徒の 86%）	900人 （全校生の 93%）	90%	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 51%	参加者の 70%	参加者の 66%	B	充実		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	違いを認め共に生きる力の育成	継続	異文化理解教育の実施	海外の高校へ訪問した人数と受け入れた人数の合計	11人	20人	51人	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 100%	参加者の 100%	参加者の 100%	B	継続	知・徳・体のバランス（文武両道）、部活動と勉強のバランスに努め、特に、体育では縄跳び・水泳・持久走を北野の伝統行事として継続しているところは評価したい。 また、英語を中心とした取組や国際交流などの拡大を進めており、ネイティブ講師による海外大学の授業（オールイングリッシュ）を生徒に実体験させる「学内留学」は北野らしい非常にレベルの高い取組である。 自己評価は高くないが、内容、目標設定、実績とも申し分なく、最高レベルの評価が妥当と考える。	ＡＡ
			体力・精神力の育成	継続	部活動の充実	部活動参加人数と実績	893人 （93%） 近畿大会以上 6件	900人 （93%） 近畿大会以上 7件	899人 （93%） 近畿大会以上 11件	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 90%	参加者の 90%	参加者の 93%	B	継続		
			バランスのとれた豊かな人間性の育成	継続	学校行事の充実	学校行事における生徒の参加者数	全校生徒 964名	全校生徒 966名	全校生徒 966名	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加生徒の 87%	全校生徒の 90%	全校生徒の 90%	B	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	高い志をはぐくむ	充実	各界リーダによる講演会の実施	OB・OGによる講演の回数及び講座数	8回 12講座	10回 14講座	6回 11講座	C	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 64%	参加者の 70%	参加者の 80%	A	充実	「各界リーダーによる講演会」に対する生徒の評価は昨年に比べ高まっている。 大阪大学基礎セミナー（単位認定）等への参加者数が大幅に増加し、京都大学への研究室訪問も４００名になるなど、高大連携の取組が広がりを見せ、生徒の進学意識の高揚につながっていると感じる。 これらの取組は、充実した内容であり、生徒の満足度も高く、高い評価に値する。今後は、結果の分析・検証に力点をおき、現在の取組を継続、充実させてほしい。	ＡＡ
			キャリア教育の推進	継続	職業ガイダンス・ 学部学科ガイダンスの実施	参加人数	1・2年 629名	1・2年 644名	100%	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 76%	参加者の 80%	参加者の 95%	A	充実		
			高大連携の推進	継続	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	1・2年生の 30% 194名	1・2年生の 30% 193名	1・2年生の 59% 380名	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 81%	参加者の 85%	参加者の 90%	A	充実		
		教員の指導力向上をめざす	授業力向上	充実	校内外の授業見学・研究の実施	授業見学・研究した人数（%）	61%	100%	81%	C	授業見学・研究を4回以上行った教員の人数（%）	37%	100%	52%	C	充実	授業見学・研究を実施した人数や回数は目標に達しなかったが、その割合は増え、学校としての授業改善の取組は進みつつあると感じる。 また、電子黒板等を利用した人数が着実に伸びていることも評価できる。電子黒板を活用した授業を見学したが、ハイレベルな内容とテンポのよさが印象に残った。 ただ、授業に対する生徒の評価は、昨年度と変化しておらず、今後、教員の授業に対するさらなる意識改革の促進と、授業力向上に向けたシステムづくりが望まれる。	B
			授業力向上	充実	授業アンケートの実施	アンケートに回答した人数	全校生徒 964名	全校生徒 965名	全校生徒 966名	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	全校生徒の 79%	全校生徒の 85%	全校生徒の 78%	C	充実		
			授業力向上	継続	授業公開の実施	授業公開における保護者の参加人数	288人	300人	391人	A	アンケートによる保護者の評価 （肯定的意見）	参加者の 100%	参加者の 100%	参加者の 98%	B	継続		
			教授法の開発	充実	電子黒板等を利用した授業法の開発と活用	電子黒板等を利用した人数	15人	20人	27人	A	アンケートによる生徒の評価 （活用しているという評価）	全校生徒の 35%	全校生徒の 50%	全校生徒の 62%	A	充実		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価		
	北野高校の伝統である、体育での縄跳び、水泳、持久走の取組を継続しつつも、オールイングリッシュの「学内留学」を新たに実施するなど、新旧の取組がバランスよく相絡み合っている。他にも、レベル別の土曜講習や卒業生による講演会の実施など、知・徳・体のバランスのとれた教育が実践されている。また、ＧＬＨＳに指定され、これまで以上に高い学力層の生徒が入学する中、電子黒板の活用や授業見学を実施するなど、従来の授業から改善の工夫がなされている。授業の満足度の向上に向けて、例えば、ベテラン教員と若手教員が連携する仕組みを作るなど、組織としての授業力向上に努めてほしい。 ＧＬＨＳの中でも看板校の１つであり、従来の公立の進学校という枠にとどまることなく、新しいタイプの全国の先駆けとなる存在として、さらなる進化を遂げてほしい。	A

平成２４年度評価シート（府立豊中高等学校）

自己評価の基準		評価審議会評価の基準	
	Ａ … 目標以上 Ｂ … 概ね目標通り Ｃ … 目標以下		ＡＡ … きわめて高い成果をあげている Ａ … 成果をあげている Ｂ … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある Ｃ … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	基礎学力の向上 学習の集中力養成	充実	勉強合宿（１・２年）の実施	１・２年の参加者数	１年86人	１・２年合計 160人	１・２年合計 120人	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	95%	95% （参加者のほぼ全員）	97%	Ａ	充実	「文武両道」から「文武両道、さらに学習」へと教育の重点目標を学習指導・進学指導へとさらにシフトさせ、勉強合宿、土曜講習やＤＶＤを活用した英語リスニング講習会などの実施による成果が進学実績などにも現れてきている。 また、昨年の取組については、参加生徒が少なく「一部の生徒の取組」と感じたが、その点も徐々に改善され、全体への広がりを見せてきているようだ。 今後、取組の成果と課題を検証しつつ、内容の充実と参加者の拡大に努め、その成果の拡大を図ってもらいたい。	ＡＡ
			基礎学力の向上	充実	土曜講習の実施	講習実施回数 参加人数	15回 700人	15回 800人	14回 750人	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	75%	80% （前年度を上回る）	74%	Ｂ	充実		
			学習内容の定着	充実	夜の質問会	実施回数 延べ参加人数	30回 1000人	35回 1200人	28回 1270人	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	75%	90% （参加者のほぼ全員）	81%	Ｂ	充実		
			英語活用力	再編	リスニング講習、プレゼンテーション講習 TOEIC TEST対策講座 （英語の運用能力の向上）	講習参加者数	300人	350人	215人	Ｃ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	98%	100% （参加者全員）	98%	Ｂ	再編		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	共感力 協調性	新規	授業成果発表会の実施	１・２年参加人数	新規	720人	720人	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	新規	70%	80%	Ａ	充実	新たな取組として始めた授業成果発表会（豊高プレゼン）は、生徒の発表機会を増やすのみでなく、生徒・保護者への１年間の取組と成果の共有に役立っていると感じる。今後のさらなる発展に期待したい。 また、知・徳・体のバランスの取れた全人教育をめざし、英語によるプレゼンテーションなどを行う留学生との交流や、年代の異なる大人や子どもとの交流など、人との「交流」を中心にした「志（こころざし）学」に取り組んでいることは評価できる。	Ａ
			協調性 健康体力をはぐくむ	継続	スキー、スノーボード講習会の実施	講習参加者数	137人	140人	114人	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	95%	95% （参加者のほぼ全員）	98%	Ｂ	継続		
			違いを認め共に生きる力	新規	英国語学研修 ハワイサイエンス研修 中国スタディーツアー	研修参加者数	新規	70人	47人	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	新規	90% （参加者のほぼ全員）	92%	Ａ	再編		
			違いを認め共に生きる力	新規	異文化交流会の実施	２年参加人数 生徒のプレゼン作成本数	新規	360人 10本	360人 9本	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	新規	70%	92%	Ａ	充実		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	高い志をはぐくむ 規範意識	充実	地域交流活動、ボランティア活動の推進	活動人数	120人	400人	550人	Ａ	感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	75%	80% （前年度を上回る）	85%	Ａ	充実	学校訪問時、生徒の礼儀正しい挨拶と部活動や地域のボランティア活動などでの教員の丁寧な対応が印象に残った。 京都大学・大阪大学の施設・研究室見学や、世界で活躍する研究者などを招いてのサイエンスセミナーの実施など、ＳＳＨ事業を組み合わせながら取組を進めていることは評価できる。 今後も、生徒に「本物に触れ、感動を与える」機会を設定するなど、生徒のやる気に火をつけ、自ら進んで取り組もうとする意識を与えることができる仕掛けを組み込んでもらいたい。	Ａ
			高い志をはぐくむ	充実	土曜セミナーの実施	実施回数	6回	7回	8回	Ａ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	75%	80% （前年度を上回る）	77%	Ｂ	再編		
			高い志をはぐくむ	継続	各界で活躍している方による講演会の実施	講演会の回数	8回	8回	7回	Ｂ	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	89%	90% （参加者のほぼ全員）	88%	Ｂ	充実		
		教員の指導力向上をめざす	授業力向上	充実	生徒による授業評価アンケート実施	実施回数	１回	２回	２回	Ｂ	生徒授業アンケート結果 （肯定的な意見）	78%	80% （前年度を上回る）	81%	Ｂ	充実	各教科の研究授業にも取り組んでいるが、今後、授業アンケート結果の分析を踏まえ、授業力向上に向け、さらなる取組の充実が望まれる。 校長がリーダーシップを発揮し、教員研修を通して取組の目的や意義を教員に浸透させていることは評価できる。教員が一体となって取り組もうという雰囲気が感じられつつあることは心強い。 今後も、現在の取組を精査しながら、その充実を図ってもらいたい。	Ｂ
			授業力向上	充実	保護者及び教育関係者等への授業公開実施	保護者と教育関係者の参加人数	220人	300人	320人	Ａ	アンケートや感想による保護者の評価 （肯定的な意見）	70%	80% （前年度を上回る）	75%	Ｂ	充実		
			授業力向上	新規	各教科研究授業の実施	各教科研究授業実施	新規	各教科 1回	12人が 1週間公開 職員研修	Ａ	生徒授業アンケート結果 （肯定的な意見）	78%	80% （前年度を上回る）	81%	Ｂ	充実		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価		
	「文武両道、さらに学習」という学習指導・進学指導の目標のもと、１年生への勉強合宿を新たに実施するとともに、教育産業（サテライト授業）を積極的に活用している。また、校長自らが豊中高校の取組について教員研修を行い、教員の意識を一体化させ、豊中高校の取組が組織として行われつつある。２月に初めて実施された「豊高プレゼンテーション」もその成果の１つであり、課題研究や群読、創作ダンスの発表など、生徒の自主性を重んじた豊中高校らしい取組であった。 今後は１つ１つの取組の成果を検証し、その対象規模や実施方法について工夫・改善を図るとともに、授業アンケートの結果を踏まえて各教科の授業力を高め、生徒の学力向上、進路の実現を一体的に推進されたい。	Ａ

平成２４年度評価シート（府立茨木高等学校）

自己評価の基準		評価審議会評価の基準	
	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下		AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	言語活用力 ICT活用力	継続	ディベートを取り入れた授業の実施	実施教科数	2教科	２教科	２教科	B	実施時間と参加人数	英語　8回 体育　6回 /３２０人	英語　8回 体育　6回 /３２０人	英語　8回 体育　6回 /３２０人 （/３６０人）	B	継続	英語・保健の授業や英語イマージョンプログラム（英語漬けの取組）において、他者を意識し自己表現するプレゼンテーションやディベートなどを取り入れるなど、生徒の主体的な行動を促して自ら学ぶ力を付けさせるような取組が数多く仕掛けられ、それが茨木の「二兎を追うたくましさ」の原動力になっていると感じられる。 今後、生徒の学力向上に向けた取組として、各教科における学年ごとの目標や取組内容をひとつにまとめた「学力育成プログラム」の作成に期待したい。	A
			言語活用力 ICT活用力	充実	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	「保健」の授業でのプレゼンテーション 委員会での生徒間でのプレゼンテーション	12回	９回	12回 （保健６回 委員会６回）	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	95%	85%	90%	B	継続		
			基礎学力の向上	新規	チューンナップ講座の開催（卒業生による学習支援・講習会の開催）	実施回数	新規	１２回	２０回	A	参加生徒数	新規	３０人/回	２０人/回	C	再編		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	共感力 違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員を中心とした多文化共生・多様性受容の取り組み	実施回数	年3回/学年	年3回/学年	年４回/学年	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	97%	90%	97%	A	継続	生徒各種委員会やリーダー研修Ⅲ（部活動部員を対象とするメディカルサポーターによる指導・支援）への、参加数の多さに感心する。 新２年生が企画し開催する新入生オリエンテーションや、生徒が宿泊野外活動（修学旅行）の業者選定から活動内容までを決定する取組などは茨木ならではであろう。これらの取組が、生徒の「課題解決能力」や「段取りを考える力」の育成に貢献しているのではないかと感じる。	ＡＡ
			違いを認め共に生きる力 紛争を解決する力	新規	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	開催回数	新規	２０回	２０回	B	平均参加生徒数	新規	２５人	２５人	B	充実		
			健康・体力をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅲ（スクールトレーナー事業―運動器の健康支援―）の実施	実施回数	10回	年１０回	年１２回	A	平均参加生徒数	のべ900人	３０人	７９人	A	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	高い志をはぐくむ 規範意識	継続	リーダー研修Ⅰ・Ⅱ（リーダーの資質と規範意識の獲得）の実施	実施回数	Ⅰ１０回 Ⅱ５回	年１０回	Ⅰ１２回 Ⅱ7回	A	平均参加生徒数	Ⅰ 80～90人 Ⅱ 80人	６０人	Ⅰ６１人 Ⅱ６５人	B	継続	各部・同好会の部長や各クラスＨＲ委員を対象に行うリーダー研修では、リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニングなどを行い、参加する生徒にとってはとても有意義であろうと考える。 地域等へのボランティア活動も、回数・参加人数ともに増え、評価できる。 また、卒業生を中心に多くの講師を招く「卒業生講座」や「学問発見講座」、京都大学や大阪大学への研究室訪問などの取組を、卒業生の支援を得ながら進めることで、生徒が茨木高校の伝統を感じられる取組になっているのではないかと考える。	A
			高い志をはぐくむ 規範意識	継続	ボランティア活動の推進	地域等の活動への参加回数	7回	４回	１０回	A	取り組み参加人数	のべ500人	のべ500人	のべ720人	A	継続		
			高い志をはぐくむ	継続	卒業生講座・学問発見講座	実施講座数・実施回数	２８講座 ２回	２８講座 ２回	２９講座 ２回	B	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	89%	90%	92%	A	継続		
		教員の指導力向上をめざす	授業力向上	継続	大学等と連携した授業力向上の取り組み	実施教科数	１教科	１教科	１教科	B	授業満足度（授業評価実施）	85%	85%	85%	B	継続	昨年度から行っているバディシステム（互見授業）により教員どうしが授業改善に努めるとともに、校長が授業観察により全教員の授業を評価した上で、その結果を教員に返すことにより、教員の授業に対するモチベーションを高めていることはすばらしい。 ベテラン教員が少なくなり若い教員が増える中、今後、学校で核となる教員を育成する仕組みづくりが求められる。	A
			授業力向上	継続	互見授業・公開授業の実施（生徒の満足度の高い先生に学ぶ）	実施回数	7回	5回	7回	A	生徒・保護者・教員等の評価 （満足度）	88%	89%	89%	B	継続		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価	英語や体育などの授業ではプレゼンテーションやディベートを取り入れ、修学旅行（宿泊野外活動）では業者選定の段階から生徒が関わるなど、授業の内外で生徒の主体性を促す取組が用意されており、将来のグローバルリーダーとしての資質を育んでいる。また、新２年生が新入生にオリエンテーションを行う生徒間の学び合いや、バディシステム（互見授業）による教員間での学び合いも行われており、今後もこれらの取組をさらに進化させていただきたい。 現在実施しているリーダー研修プログラムや各教科で作成している教科の学習プログラムを、茨木高校の３年間の学びのシステム「学力育成プログラム」として視覚化できれば、生徒は今の自分の立ち位置を認識しながら学習活動や学校行事に打ち込むことができ、保護者の学校への信頼にもつながる。若手教員や、これから核となる教員の指導の指針としても活用できるだろう。	A

平成２４年度評価シート（府立大手前高等学校）

自己評価の基準		評価審議会評価の基準	
	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下		AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価審議会の評価 評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	言語活用力 ICT活用力	継続	プレゼンテーション能力の向上	ＳＳＨプレゼンテーションコンペの参加者数	新規	20人 （２年文理学科の25%）	190人	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	新規	90% （参加者のほぼ全員）	95%	A	再編	生徒に刺激を与え、かき混ぜて混乱させて、何かをやらせようというのが大手前のスタイル（校長談）で、全国のＳＳＨ校の生徒が参加するマスフェスタや、タイ・韓国・中国の生徒を呼んで環境問題についてオールイングリッシュで発表する高校生国際科学会議など、学びの場・刺激の場を非常に贅沢に生徒に提供している。 今年から１年生にも２泊３日の勉強合宿を実施しているが、希望制とは思えないほどの生徒が参加しているのに感心する。	AA
			基礎学力の向上	充実	勉強合宿の実施	参加人数	520人	570人 （全校生の60%）	604人	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	96%	100%	100%	B	再編		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	違いを認め共に生きる力 紛争を解決する力	継続	異文化理解教育の実施 （海外の高校との交流会の実施）	学校訪問受入と 海外スタディツアー実施	３校	4校 （前年度を上回る）	８校	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	80%	90% （参加者のほぼ全員）	92%	A	再編	韓国や中国の高校生代表訪日団との交流や、マレーシア研修・シンガポール研修の成果もあり、留学したい・海外に行きたいという生徒が増えていると聞く。 放課後生徒１０００人が練習するコーラス大会や１日２５００m泳ぐ水泳訓練を実施するほか、部活動加入率は９０%を超える。また、来年度はボランティア活動・社会貢献の意識をはぐくむため、２４時間がん患者を救うためのチャリティに参加するなど「知・徳・体」をめざし取り組んでいることはすばらしい。	AA
			共感力 協調性 健康・体力をはぐくむ	継続	集団づくりの取組み	野外生活体験学習の参加者数	290人	３６０人 （１年全員）	362	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	85%	90% （参加者のほぼ全員）	100%	A	再編		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	規範意識	新規	地域清掃等ボランティア活動の推進	早朝地域清掃活動の回数	140日	190日 （授業日数）	170	B	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	70%	80% （前年度を上回る）	70%	B	再編	卒業生による講演会は回数も増え、生徒の肯定的意見も９８%と非常に高く、評価できる取組であると考える。 また、生徒の視野を広げ興味関心を高めるため、２日かけて実施する『講義』『見学・体験学習』『ボランティア』など７５講座からなる「集中セミナー」も、回数（日数）・規模ともに半端なく、高く評価できる。 今年度新たに英語運用能力を高める取組として、英会話スクールと連携した英語講習を行ったが、その成果測定、分析をしっかりと行い、来年度実施予定のＴＯＥＦＬ講座に活かしてほしい。	A
			高い志をはぐくむ	継続	各界リーダーによる講演会の実施	OB・OGによる講演会の回数 （土曜日を活用した「〇〇講演会」）	15回	18回 （月２回）	47	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	90%	90% （参加者のほぼ全員）	98%	A	継続		
		教員の指導力向上をめざす	授業力向上	新規	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	実施回数 （駿台教科指導研究会参加、大学教授による教科指導研究会）	1回	2回 （前年度を上回る）	１２回	A	授業満足度（授業評価実施）	70%	72% （前年度を上回る）	85%	A	再編	授業力向上に向けて、予備校や大学との共同による教科指導研究や、首席による初任者等教員を対象とした研修会など、教員全員が組織的に取り組んでいる様子が感じられる。 進路指導については、生徒に外部模試を受けさせ、その結果を教員全員で分析し、生徒にフィードバックするシステムになっている点も評価できる。 ハイレベルな授業をめざすことから授業満足度の目標設定が72%となっているが、次年度は、目標設定を上方修正して、「ハイレベルな授業」と「わかる授業」の両立をめざし、ＩＣＴ機器を活用するなど、授業改善をもう一歩進めてほしい。	A
			教材開発	継続	学習コンテンツの開発	進路支援システムへのコンテンツの開発	新規	6本 （国・数・英各2本）	１１本	A	授業満足度（授業評価実施）	70%	72% （前年度を上回る）	85%	A	継続		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価		
	入学してきた生徒に対し、海外研修プログラムや水泳訓練などの数多くの行事でいろいろな刺激を与えたうえで、自分の頭で考え主体的に行動することを要求する「大手前スタイル」が学校全体に浸透している。また、今年度の新しい取組である英会話スクールと連携した英語講習の次なる展開や、来年度のチャリティ事業への計画といった、先を見据えて手を打っているところがスマートであり、大手前高校の取組はＧＬＨＳとしての１つの完成された形であるといえる。ただ、グローバルリーダーの育成にはスマートさだけでなく、型からはみ出す部分も必要であろう。現状に満足することなく、さらなる高みをめざして、貪欲にチャレンジしてほしい。 今後は取組が遅れているＩＣＴの活用について、授業での導入を含め、新たな仕掛けを期待したい。	AA

平成２４年度評価シート（府立四條畷高等学校）

自己評価の基準	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下	評価審議会評価の基準	AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																	コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	基礎学力の向上 言語活用能力	継続	学習合宿の実施（１・２年） ※英語コミュニケーション集中講座を実施（１年）	参加人数	720人	720人	718人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	92%	90%	92%	A	継続	１年生の学習合宿では、学習への習慣づけや、英語づけの生活など、さまざまなメニューが用意されており、生徒の評価も高く、高校生としての自立的な学習のスタートを切るにふさわしい行事として位置づけられているように感じた。 情報プレゼン大会は、生徒にとっての貴重な発表の場であるとともに、その準備から実施をとおして、生徒一人ひとりが情報活用能力を身に付けているのではないかと感じられる。	A
			ICT活用能力	継続	情報プレゼンテーション大会の実施（１年）	参加人数	360人	360人	360人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	84%	85%	85%	B	継続		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	違いを認め共に生きる力 共感力 協調性	継続	海外修学旅行の実施（２年） 学校交流	参加人数	360人	360人	358人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	98%	90%	97%	A	継続	台湾修学旅行に対する生徒の高評価やオーストラリア研修への希望生徒の倍増は、ネイティブを交えたグループ活動や台湾・オーストラリアの交流校生徒のホームステイ受け入れなどの成果であると考えられる。 また、国際教養大学への現役合格やスピーチコンテストでの２名優勝などの成果が現れてきていることも高く評価できる。 訪問時に見学した図書館がとても印象的で、蔵書の充実ぶり、特設コーナーなどの工夫された展示に驚かされた。生徒の学びの場、豊かな感性をはぐくむ場として重要な役割を果たしていると感じた。	AA
			違いを認め共に生きる力 共感力 協調性	充実	オーストラリア研修の実施（１２年希望者） 学校交流	希望者数と参加人数	希望者35人から15人を選抜	希望者30人から20人を選抜	希望者64人から20人を選抜	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	100%	80%	100%	A	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	高い志をはぐくむ	継続	探究チャレンジ（１年文理学科と希望者）	作成論文数	160部	160部	160部	B	作成論文が外部の教育賞を受賞すること	受賞数１	２編以上	受賞数１	B	継続	探究チャレンジは、多くの教員が担当する学校全体の取組になっており、評価できる。図書館に並べられた論文を見たが、テーマは多種多様なもので、しっかりした内容にも感心した。 現役志向・安全志向の生徒が多くいる中、生徒が憧れる大学へのキャンパスツアーや、２年生対象の高難度の入試問題を解く学習会などを実施しているが、今後さらに、生徒のもつ夢や志の実現に向けて、学習意識を高められる取組を企画してもらいたい。	A
			高い志をはぐくむ	新規	エネルギー探究（１年文理学科と希望者）	参加人数	新規	１年文理学科全員と希望者100名	360名	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	新規	90%	90%	B	継続		
		教員の指導力向上をめざす	進路指導力向上	継続	民間教育産業と協同したスキルアップ研修	実施回数と参加人数	年3回 のべ170人	年３回 のべ170人	年3回 のべ153人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的意見）	77%	80%	80%	B	継続	進路指導力の向上をめざし定期的に実施している民間を活用したスキルアップ研修に、教員のおよそ８割が参加していることは評価できる。 また、教科代表のみであった公開授業を全教員に拡大するなど、全教員が授業力向上に取り組んでいることが四條畷の大きな強みであると感じた。 「本校の授業は力がつく」と答えた生徒の割合（９４%）が示すとおり、訪問時に見学した古典・生物の授業は指導方法、教材も工夫されており、高く評価できるものであった。今後、教科指導力の高い教員のもつスキルを他の教員に伝えていけるような取組も進めてもらいたい。	A
			初任者の指導力向上	新規	初任者の指導力向上を目指す取り組み	初任者ミーティング回数	新規	年１０回	年10回	B	アンケートや感想による教員の評価（肯定的意見）	新規	90%	100%	A	継続		
			教科指導力向上	充実	教員間の授業公開	実施回数	年２回各教科ごと毎回１名	１回目は各教科全員、２回目は各教科１名以上	１回目は各教科全員、２回目は各教科1名以上、その他(他校への授業見学)	A	授業満足度	77%	80%	80%	B	継続		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価	豊富な蔵書数を誇る学校図書館では、探究チャレンジで生徒が書いた論文を展示するなど、その内容は非常に充実している。学校の周辺環境とも相まって、落ち着いた雰囲気の中、学びの空間が形成されている。１年生の情報プレゼンテーション大会や探究チャレンジ成果発表会などにより情報活用能力やプレゼンテーション能力を養うとともに、オーストラリア研修や２年生文理学科全員と普通科希望者へのTOEIC Bridge受検などにより英語運用能力の向上を図るなど、グローバルリーダーとしての資質を育む取組も年々整いつつある。 今年度は、教科代表のみであった公開授業を全教員に拡大し、授業力向上への取組を図っているが、優れた教員のスキルを伝え合う場を設けるなど、教員間の学び合いの仕掛けがあると、教員の組織としての一体化が進むであろう。また、今年度指定されたスーパーサイエンスハイスクールでの理数教育や探究活動の取組を図る中で、生徒間同士でも学び合いの仕掛けを充実させていただきたい。	A

平成２４年度評価シート（府立高津高等学校）

自己評価の基準		評価審議会評価の基準	
	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下		AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	基礎学力の向上	充実	学習合宿 ＜対象：１年生全員＞	参加人数 内容の充実	全員参加	全員参加	全員参加	B	アンケートや感想による生徒の評価（満足度）	９０％ （全員参加）	90%	９５％ （全員参加）	A	充実	入学生に対してさまざまなアプローチをしているのが大きな特長だと感じる。入学前に計７教科からじっくり考えさせるような特別課題を与えたり、高校での学習スタイルを確立させるため学習合宿を行うほか、入学後早い時期に、クラス単位で行う「校長室訪問」（校長による特別授業）は高津ならではの取組である。これらの取組をとおして、生徒に高津高校生としての自覚と、受け身ではなく自主的に取り組む姿勢をはぐくんでいると考える。 １，２年生が全員参加し、年２回行うネイティブを活用した英語漬けの取組KITECは、生徒の満足度も非常に高く、評価できる。	AA
			言語活用力 読解リテラシー 科学的リテラシー	充実	入学前の学習課題の工夫 （思考力や表現力等を求める学習課題を含める） ＜対象：１年生文理学科＞	課題の内容 課題供与教科	課題教科数 ６教科 （国社数理英家）	課題教科数 ７教科 （国社数理英＋芸家）	課題７教科	B	課題提出 新入生の高評価 教員の高評価	全員 90% 90%	全員 90% 90%	全員 90% 90%	B	継続		
			読解リテラシー 科学的リテラシー	継続	数・英における習熟度別少人数授業 ＜対象：英語は３学年全員、数学は２・３年生全員＞	内容	数学・英語	全員参加	全員参加	B	生徒の高評価 教員の高評価	90%	90%	95%	A	継続		
			言語活用力	継続	英語コミュニケーション講座KITEC（標準編） ＜対象：１・２年生全員、３年生希望者＞	１・２年参加者 ３年生参加人数	7/23～7/26 ６人毎のグループで実施	全員参加 ３年生２０名	全員参加 ３年生２０名	B	アンケートや感想による生徒の評価（満足度）	９５％ （全員参加）	90%	９５％ （全員参加）	A	充実		
			言語活用力	充実	英語コミュニケーション講座KITEC（発展編） ＜対象：１・２年生全員＞	内容	3/5～3/6 ４名毎のグループで実施	１年生全員参加 ２年生全員参加	１年生全員参加 ２年生全員参加	B	アンケートや感想による生徒の評価（満足度）	９５％ （全員参加）	90%	９５％ （全員参加）	A	継続		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	共感力 協調性	継続	ボランティア講座 ＜対象：１・２年生希望者＞	講座および実践への参加人数	６回実施 参加生徒数 131名	１２０人の参加	１２３名の参加	B	アンケートや感想による生徒の評価（高評価）	90%	90%	90%	B	継続	創立以来の「自由と創造」の校風とその伝統が訪問時にも随所に感じられ、高津を希望する生徒の４割が校風に惹かれて来るということも納得できた。 保育所でのボランティア講座や高津キャラバン隊、高齢者も参加する第５地区高校生フェスティバルなど、地域や社会との関わりを実感できる取組が充実しており、自治会や部活動での参加を含め、多くの生徒が参加し、生徒の満足度は非常に高い。 また、高津には外国にルーツをもつ生徒が多くいるため、校内での活動においても、生徒にとっては多くの気付きや学びがあるのではないかと感じられる。	A
			違いを認め共に生きる力	継続	東大阪支援学校との交流 ＜対象：自治会生徒及び部活動有志生徒＞	生徒自治会 参加部活動の数	生徒自治会 参加部活動数 ２クラブ	生徒自治会 参加部活動数 ２クラブ	生徒自治会 参加部活動数 ２クラブ	B	参加した生徒の意識変化	100%	90%	100%	A	継続		
			共感力 協調性 違いを認め共に生きる力	充実	高津キャラバン隊（部活動が行うボランティア活動） ＜対象：運動部及び文化部所属生徒＞	参加クラブ数 参加人数	１８クラブ 約２５０名	のべ２０クラブ １２０名以上 （全クラブの70%）	のべ２９クラブ ３００名以上 （全クラブの90%）	A	参加した生徒の意識変化	80%	90%	90%	B	継続		
			共感力 協調性 違いを認め共に生きる力	充実	第５地区高校生フェスティバル ＜対象：有志生徒＞	本校参加者数 他校生徒参加数 参加学校数	本校２クラブ 参加校８校 聴衆２００名	生徒100名 参加校１０校 聴衆１５０名	生徒１５０名 参加校１４校 聴衆２５０名	A	アンケートや感想による生徒の評価（満足度） 聴衆の感想（満足度）	１００％ １００％	９０％ ９０％	１００％ １００％	A	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	進路実現	継続	土曜講習 ＜対象：希望者＞	回数	３年19回 ２年１３回 １年17回	３年19回 ２年１３回 １年17回	３年19回 ２年１３回 １年17回	B	アンケートや感想による生徒の評価（満足度） 生徒出席率	９０％ ９０％	９０％ ９０％	９０％ ９０％	B	継続	７月の午後５日間を使って実施する大学への研究室訪問を含めた体験型進路学習は、生徒の進路意識を高めるための重要な行事として位置づいていると考える。 コアＳＳＨ事業として実施する「水と環境」をテーマにした韓国の高校生との共同研究には、他校生徒を含め多くの生徒が参加し、満足度も１００％である。 また、希望進路の実現をめざした進路保障の観点から、英数国を中心としたカリキュラムを設定するとともに、土曜日講習を実施するなど、目標を高めに設定しながら、学習成果が十分定着していない生徒には繰り返し支援・指導を行うという学校の方針がさまざまな学習活動で生かされていると感じた。	A
			高い志を育む	充実	生徒のための講演会 ＜対象：全生徒＞	回数 内容	３年１回 ２・１年３回	各学年１回 全学年１回	２・１年１回 内容（人権）	C	アンケートや感想による生徒の評価（満足度）	90%	90%	90%	B	継続		
			進路実現 高い志を育む	充実	体験型進路学習 （職業聞き取り調査） ＜対象：１年生全員＞	調査内容 プレゼン内容	調査・まとめ・クラス発表・優秀班の全体発表	全班の調査内容 優秀班の発表内容	調査・まとめ・クラス発表・優秀班の全体発表	B	アンケートや感想による生徒の評価（満足度） 訪問先企業の評価	９０％ ９０％	９０％ ９０％	９０％ ９０％	B	充実		
			進路実現 高い志を育む	新規	体験型進路学習 （学問聞き取り調査） ＜対象：２年生全員＞	調査内容 ポスター発表内容	新規	全班の調査内容・ポスター発表内容	調査・まとめ・ポスター発表	A	アンケートや感想による生徒の評価（満足度） 訪問先大学研究者の評価	９０％ ９０％	９０％ ９０％	９０％ ９０％	B	充実		
			高い志を育む	継続	大学、ＪＳＴ等の研究機関および企業等との連携、公開講座・展示会・セミナー・発表会への参加＜対象：１年生全員＞	１年生全員参加 複数回参加生徒数１２０名	全員参加 １２０名以上	全員参加 １２０名以上	全員参加 約１５０名	A	アンケートや感想による生徒の評価（満足度）	90%	90%	90%	B	充実		
			高い志を育む	充実	海外先進校（韓国・全北科学高校等）との交流 ＜対象：希望者＞	参加校数 参加生徒数	１４校 ３０名	１５校 ３０名	１８校 ３７名	A	アンケートや感想による生徒の評価（満足度）	100%	90%	100%	A	充実		
		教員の指導力向上をめざす	授業力向上	継続	教師のための講演会 from　高津	回数	３回 （第１回10/7 第２回11/9 第３回2/24）	２回	２回 （第１回12/6 第２回2/8）	B	アンケートや感想による生徒の評価（満足度）	90%	90%	90%	B	継続	全教員が同じ目標を持って取り組むことは重要だが難しい。その点でも、校長のリーダーシップのもと、年度当初に「高津高校行動計画」を教員に示し、ベクトル合わせや認識の共有を図ったことは高く評価できる。 教員間の授業交流、教員のための講演会、生徒による授業アンケートなど、授業力向上に積極的に取り組んでいるが、今後、よりいっそう、授業改善のシステムづくりが求められる。 多くの取組を実施しており、その取組を支える教員のパフォーマンスを維持・向上させるために、今後、その成果を検証した上で、スクラップアンドビルドしながら取組の充実を図ることが望まれる。	B
			授業力向上	充実	生徒による授業評価 保護者への授業公開	授業評価の実施 授業公開の実施	授業評価 ７月から１１月 授業公開（保護者５月１０月）	全員実施 全員実施	全員実施 ２回実施	A	全教員実施	全教員実施	全教員実施	全教員実施	B	充実		
			授業力向上	充実	教員間の授業公開と指導方法の改善	授業公開の実施 教科内で指導方法の改善実施	全員実施 教科内研修	全員実施 教科内研修実施	全員実施 研究協議実施 （国・社・数・理・英）を2月に実施	A	全教員実施	全教員実施	全教員実施	全教員実施	B	継続		
			授業力向上	新規	小中学校の先進事例に学ぶ	内容	新規	小学校と中学校への訪問	１回 （茨木市立安威小学校）	B	参加教員の自己評価	満足	満足	満足	B	充実		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価	「自由と創造」の校風に惹かれ、１２０を超える中学校から入学してくる新入生に対して、入学前学習として７教科の課題を与え、入学後４月の学習合宿で意識改革を迫ることにより、高津高校生としてのイズムを叩き込むスタイルが確立している。部活動が行うボランティア活動「高津キャラバン隊」の取組や第５地区高校生フェスティバルなどへの参加により、地域の中で生徒の社会性を育んでおり、参加生徒の満足度も非常に高い点は評価できる。教員の指導力向上については、講演会や授業公開、教科内での研修の実施などが行われているが、今後は、生徒の授業アンケートの結果を踏まえ、よりいっそう授業改善に資する取組が求められる。 また、現在行っている取組は多岐に渡っているが、その成果を検証して、重点戦略を策定し質の向上に努められたい。	A

平成２４年度評価シート（府立天王寺高等学校）

自己評価の基準		評価審議会評価の基準	
	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下		AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	自学自習の確立	充実	桃陰セミナー、部学習日など（勉強は学校で、自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数 部学習日実施回数	24回 21回	20回 20回	22回 20回	A	桃陰セミナー平均参加者数	243名（延べ参加生徒 ５８３１名）	250名	333名	A	充実	各教科で３年間を見通して、生徒の進路指導を実現する「学力スタンダード」はとてもすばらしい。また、校長が教科指導についてより詳細なものを各教科に求め、さらなる改善を進めている点も高く評価できる。 また、毎年改良・充実（今年度新たに世界史を作成）を図る自主教材や、今年度参加者がさらに増えた桃陰セミナー（土曜日に多数の卒業生が質問に答える）などは、生徒の自学自習力の向上に大いに役立っていると感じる。 ８月に全学年希望者に対し勉強合宿を実施するほか、３年生対象にセンター試験終了後、学部・学科別の講座制授業を実施するなど、非常に丁寧な指導を行っていることに感心する。	AA
			基礎学力の確立・充実	充実	天高スタンダードの確立と達成 （本校で各学年で達成する学力基準） ⇒達成度の点検と 未達成者への補習・講習	自主教材の開発 （冊子化し学習の指標とする） 指名講習の実施	自主教材作成（国語、数学、英語、化学） 補習講習（国、数、英：指名） 考査間４～５回実施により成績の改善が見られる	自主教材の作成（国社数理英） 定期考査ごとに実施	自主教材の作成（国世数化英） 定期考査ごとに実施	A	スタンダード明確化 指名講習の実施	自主教材作成（国語、数学、英語、化学） 補習講習（国、数、英：指名） 考査間４～５回実施により成績の改善が見られる	スタンダードの明示 考査ごとに４～５回（国数英）	３年通じての学力育成プログラム作成 考査ごとに４～５回実施	A	充実		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	人権意識、共感力の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 各種講演会、ワークショップの実施	各種講演会の回数 ワークショップ等の満足度（アンケートと感想文）	生徒満足度９０％ 感想文から講演趣旨は充分伝えられ、理解を深めた	各種講演会４回 ワークショップ指導のスキル向上	人権講演会4回実施 1年１回、3年2回のワークショップ、２年1回の見学会実施	B	講演会毎の生徒アンケート（満足度）等	９０％ 感想文から講演趣旨は充分伝えられ、理解を深めた	80%	90%	A	継続	学校経営として「天高育成プログラム」にすべての行事や取組を位置付け、実践していることはすばらしい。 訪問時にさまざまな行事の様子をＤＶＤで見たが、生徒のエネルギー・パワーに圧倒された。伝統ある運動会、さらしを巻いて泳ぐ水泳訓練、電気・ガスもない山荘での宿泊研修などの行事や入部率９５％の部活動など、文武両道の教育実践はすばらしく、高く評価できる。 今後も、この伝統を継承し、生徒に多くの刺激を与え、「天高魂」をはぐくんでいってもらいたい。	AA
			チームでの取り組み	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 野外生活体験学習、水泳訓練、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの実施	天高育成プログラムで示される力の向上につながる各行事のマニュアル作成と実行	野外生活体験学習台風により一部代替行事を実施、水泳訓練（２００名）参加 生徒満足度９０％	計画行事の実施	すべての行事を計画通り実施。生徒の行事に対する満足度９０％(学校教育自己診断より）	A	行事毎の参加生徒アンケート（満足度）	野外生活体験学習台風により一部代替行事を実施、水泳訓練（２００名）参加 生徒満足度９０％	80%	90%	A	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	規範意識の陶冶と自尊感情の育成	継続	早朝ホームルールの実施 ＴＰＯに応じた服装（標準服）着用	学年連絡室の活用状況 始業式や校外行事での服装	遅刻数 ２２７減少 標準服未着用者　少数 （１クラス２、３名）	行事等の標準服着用率	遅刻者数 前年比５００増加 標準服未着用者　少数	C	遅刻状況と集会や外部の行事における服装	遅刻数 ２２７減少 標準服未着用者　少数 （１クラス２、３名）	遅刻ゼロ 校外での行事の標準服着用	遅刻者数 ５００増加 標準服未着用者 少数	C	充実	遅刻者数については朝のＨＲ実施が成果として表れていないようだ。来年度から実施すると聞く教員による校門指導に成果を期待したい。 さまざまな分野で活躍する人を講師に招く「天高アカデメイア」、海外セミナーツアーやオーストラリア派遣などの国際交流の取組などは生徒の満足度も高く、評価できる。 日本数学オリンピックへの１名本選出場（３名が予選通過）や、パリで開かれたユネスコ「世界水の日こども議会」への３名参加などは、これらの取組の成果と言えるであろう。	A
			高い志の育成	充実	大阪大学、京都大学見学会 社会人講演会、職場見学会 学部・学科紹介などの実施 天高アカデメイア（講演会）の実施	見学会や講演会などの実施回数 参加者のアンケート、感想文	参加生徒は大会満足度を示し、感想文などから行事の趣旨を充分達した。	計画行事の実施	すべての行事を計画通り実施。	A	講演会毎の参加生徒アンケート（満足度）	参加生徒は大会満足度を示し、感想文などから行事の趣旨を充分達した。	80%	９２～９３％	A	充実		
		教員の指導力向上をめざす	研究授業 授業参観の実施	充実	各教科研究授業の実施 6月、１１月に授業公開週間設置	研究授業実施 １人当たりの授業実施回数	延べ１０回（全教科実施） ４回（延べ５１５回）	全教科１回 ４回	各教科研究授業（１１回） ４回（延べ５１５回）	A	授業アンケートと授業見学回数	研究授業を延べ１０回（全教科実施） 授業見学延べ５１５回（平均４回/人）	研究授業（全教科実施） 授業見学１回/人（全教員対象）	研究授業全教科実施 授業見学４回/１人	A	充実	各教科が３年間を通した目標や指導計画・授業計画を作成した上で、３年間のゴールを決めて教科指導に取り組んでいる。 また、「授業第一主義」を掲げ、各教科における研究授業や外部講師による教員研修などにより、授業力向上に取り組んでいることは評価できる。 ただ、学校教育自己診断の「学校の授業だけで進路希望達成に必要な学力をつけてくれている」の結果が７０％ということを踏まえ、進路保障の観点からも、さらなる授業力向上に向けた取組の充実が望まれるところである。	A
			他府県先進校の見学 教科指導研究会の実施	充実	先進県を視察し、授業参観教材集等の情報収集 外部講師による指導法講座の実施	他府県視察校数 指導法研究会実施回数	５校 7回	３校（６名） ４回	６校 １０回	A	他府県視察校や指導法研究会の教員間の情報共有	他府県視察５校、指導法研究（7回）の成果は、職員会議、関係委員会に報告その後の事業改善、授業改善	職員会議等で報告	職員会議等で報告	A	充実		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価	「創造知の練磨」「国際人の養成」「天高魂の涵養」を柱として、生徒一人ひとりの志の実現をめざす「天高育成プログラム」を策定し、これを全教員が共有し、実践している。運動会や水泳訓練、野外生活体験学習（電気・ガス・水道・トイレのない山荘でのクラス毎の宿泊研修）などの伝統行事についても育成プログラムに位置付けられており、生徒・教員はその意義や目的を理解し、実施されている点が素晴らしい。また、本物の学力を身につけ、生徒の希望進路を実現させるため、各教科で３年間を見通した「天高学力スタンダード」を作成し、学校全体として進路保証を行っている。ただ１点、今年度は遅刻者数が増加しており、グローバルリーダーとしての規範意識の向上が望まれる。 さまざまな行事に本気で取り組み、豊かな人間性を育むと同時に、志を高くもち、希望進路を実現する生徒を多数輩出する日本一の公立高校をめざして、その存在感をますます高めてほしい。	AA

平成２４年度評価シート（府立生野高等学校）

自己評価の基準		評価審議会評価の基準	
	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下		AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	基礎学力の定着	充実	自学自習時間を増やす取組み 進学講習の実施	平日の平均自学自習時間 講習参加者数	1年72分 2年74分 3年２０４分 延べ826名	1年90分 2年90分 3年180分 延べ720名	1年62分 2年99分 3年204分 延べ1258名	C	1・2年平日の平均自学自習１時間未満の者の割合 アンケートによる生徒の評価（講習満足度）	１年28%、 2年24% 新規	３０%以下 ８０%以上	1年37%、 ２年10% 満足度85% （3年講座別授業）	C	継続	部活動が活発であるがゆえに、学校として生徒の自学自習の定着に取り組んでいることは評価できる。自習室の夜８時までの開放のほか、望ましい生活パターンを示した「生野高校生スタンダード」を生徒に配付する取組は特長的である。 訪問時に「探究」の授業で生徒の発表を見学したが、特に文系の内容が秀でているのではないかと感じられた。 また、ほとんどの生徒が国公立大学を希望する中、希望者講習（進学講座）を実施するとともに、抽出による指名補習を行っていることも、進路保障の観点から評価できる。	A
			言語活用力 ＩＣＴ活用力	新規 充実	プレゼンテーション能力の向上	プレゼンテーション参加者数 （校内・校外）	校内：当該生徒全員240名 校外：34名	校内４００名 校外２０名	校内５６０名 （当該生徒全員） 校外58名	A	アンケートによる生徒の評価（２年生の発表会を見た１年生の満足度）	実施前と実施後の調査の結果、１０項目の質問のうち９項目で明確な意識の向上が見られた	80%	９３%	A	充実		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	違いを認め共に生きる力	充実	異文化理解教育の推進	海外スタディツアー・サイエンスツアーの参加者数	２９名	４２名	４４名 （台湾交流2回、海外修学旅行、アフリカ教員による理科授業）	A	アンケートによる生徒の評価（肯定的意見）	92%	90%	スタディツアー ９６% サイエンスツアー １００%	A	充実	２日間英語でのディベート・プレゼンテーションなどを行うイングリッシュキャンプや、１年生全員が受検する英語検定などの取組が、オーストラリアへのスタディツアー・サイエンスツアーに対する希望者の増加や参加者の満足度の高さにつながっているのではないかと感じる。 また、学習・部活動の両立の数値の伸びは、学校として生徒の自学自習の定着に取り組んでいる成果と言えるであろう。	A
			共感力、協調性、健康・体力を育む	継続	部活動・学校行事の活性化	学習と部活動の両立 学校行事に進んで参加する生徒の割合	両立５７% 参加率８６%	両立60% 参加率85%	両立６３% 参加率８５%	A	学校教育自己診断による生徒の評価（達成感・満足度）	両立５７% 行事86%	両立60% 行事８５%	両立６３% 行事８５%	A	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	規範意識	継続	欠席・遅刻を減らす取組み	３年生欠席者数 ３年生遅刻数	1780 約3900	前年度以下 前年度以下	2185 約4200	C	学校教育自己診断による生徒の評価（「学校へ行くのが楽しみ」の率）	79%	80%以上	80%	B	充実	「規律ある進学校」をめざし、規範意識の育成に努めている（校長談）が、遅刻者数は増えている。今後、生徒のさらなる自覚を促すような指導に期待したい。 毎年多くの生徒が希望する大阪大学医学部の手術体験など、大学での研修や実習を多く取り入れており、生徒にとって本物に触れ、刺激を受けるよい機会になっていると感じる。今後さらに、生徒のやる気を引き出す取組の推進に期待したい。 普通科の中に１クラス設置するＳＳＨコースは生野ならではで、文理学科とあわせて大きな魅力になっていると感じた。	A
			高い志を育む	新規 充実	国公立大学へのキャンパスツアー、卒業生等による講演会、地域清掃等ボランティア活動	キャンパスツアー参加者数 講演会の回数 地域清掃活動の回数	27名 1回 数回 （部活動）	５０名 5回 2回	１４８名 6回 3回 （保健委員等）	A	アンケートによる生徒の評価（肯定的意見）	キャンパスツアー100% 講演会91%	80%以上	京都大学 ｷｬﾝﾊﾟｽｶﾞｲﾄﾞ 満足度９０% 講演会満足度 94%（2年）	A	継続		
		教員の指導力向上をめざす	授業力の向上	継続	校内における研究授業の実施、授業の相互参観	研究授業の回数 相互参観の参加率	国数理英で実施　教諭の75%が平均3.7回実施	各教科１回 全教員１回	国社数理英で実施 教諭の85%が平均4.4回公開 6.3回見学実施	B	授業評価による授業理解度	77%	1年70% 2年80% 3年85%	1年68% 2年75% 3年８６%	B	充実	教科ごとに取組計画、課題、評価指標と自己評価を書く「ＩＫＵＮＯ学習スタンダード」を作成させたり、年２回実施する授業アンケートの結果を活用した取組や研究授業・相互授業参観の取組を進めるなど、学校として授業力向上に努めていることは高く評価できる。 また、学年・分掌などにも、学校の組織として、学校経営計画に基づく目標を立てさせた上で、中間点検をし、年度総括をさせるというＰＤＣＡを踏まえた取組を進めており、校長の統率力の高さが感じられる。今後の成果に期待したい。	A
			授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	２０名	前年度並み	３１名 （平均1.8回）	A	授業評価による授業理解度	77%	1年70% 2年80% 3年85%	1年68% 2年75% 3年８６%	B	継続		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価		
	校長のリーダーシップのもと、校内の組織づくりがうまく機能し始めており、「生野高校生スタンダード」を示すなど、活発な部活動と学習を両立させる意識が教員にも生徒にも定着しつつある。また、普通科にＳＳＨコースを設置するという、生野高校ならではの取組も学校運営上、うまく機能している。今年度新たに、授業力向上に向けての取組として「ＩＫＵＮＯ学習スタンダード」を作成されたが、さらにブラッシュアップさせ、授業改善に役立てられたい。課題としては、増加している遅刻者数への対策。グローバルリーダーとしての規範意識の醸成をしっかり行っていただきたい。 ２日間英語漬けのイングリッシュキャンプや１年生全員が受検する英語検定の取組の成果も現れ始めている。まだまだ、成長途上、発展途上にある生野高校が、「生徒を伸ばす学校」として、その存在をアピールしてほしい。	A

平成２４年度評価シート（府立三国丘高等学校）

自己評価の基準	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下	評価審議会評価の基準	AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	基礎学力及び自学自習力の向上	継続	勉強合宿の実施（１・２年生） 土曜クラブの充実 成績不振者講習の実施 （１・２年生）	参加人数 チューターによる懇談回数 講習実施回数	128人 （1年90名、2年38名） 1回 4回	100人 （1年60名、2年40名） 学期に1回 学期に1回	113人 （1年66名、2年47名） 10回 65回 （4教科9科）	A	アンケートや感想での肯定的評価 1・2年生での自学自習を2時間以上行う生徒の割合 補充講習への出席率	1年97%、2年93% 1年33%、2年45% 100%	95% 50% 100%	91% 37% 100%	B	継続	英語力と国際感覚、理数力、メンタリティの３つを教育の柱に掲げ、英語力については、スカイプを通じてのＴＯＥＦＬ講座、イングリッシュコミュニケーションスキル講座などを実施。また、新たに文理学科２年生の授業でＴＯＥＩＣに取り組み、多数の生徒が受検、最高は９００点を超えたのは、大きな成果であると言えるであろう。 課題研究は理系・文系をそれぞれ「ＳＳＨ課題研究」と「ＣＳ研究」の２本柱で進め、発表回数も多く、英語での発表も取り入れるなど、充実した内容であると感じる。 「自学自習を2時間以上」の目標に対する達成率が十分ではないため、家庭学習や自学自習が定着する方策について検討を進めてもらいたい。	AA
			ICT活用力	新規	プレゼンテーション能力の向上	情報関連科目でのプレゼン SSH発表会等でのプレゼン 学校説明会での生徒発表	全員１回 年間５回 年間２回	全員２回 年間５回 年間２回	全員2回 年間５回 年間２回	B	SSH運営指導委員会での評価 実施後のアンケートや感想	新規	肯定的感想意見が大半	肯定的感想が大半	B	充実		
			科学的リテラシー 課題解決能力を育む	充実	「SSH課題研究」及び「CS研究」などの充実	大学研究室の訪問回数 CS研究Ⅰの継続実施 CS研究Ⅱの設置	10回 継続実施 新規	8回 毎週実施 実施	10回 毎週実施 実施	B	「SSH課題研究」及び「CS研究」の発表回数	口頭３回 ポスター6回	8回	9回 （口頭4回、ポスター5回）	B	継続		
			英語運用能力の育成	充実	ＴＯＥＦＬ講座の継続実施 使える英語の特別レッスン	実施回数 実施回数	10回 新規	10回 8回	10回 8回	A	講座参加人数 英語資格試験（TOEFL等）受験者数 特別レッスン参加者数	35人 ＴＯＥＦＬ受験者数5人 新規	40人 ＴＯＥＦＬ5人、 ＴＯＥＦＬ jr 100人 延べ80人	48人 ＴＯＥＩＣ166人、 ＴＯＥＦＬ jr 46人 延べ72人	A	充実	メンタリティについては、「自主・自立」「文武両道」の三丘スピリットを受け継ぎながら、高い加入率を誇る部活動、学校行事やボランティア活動への参加により、付けさせている。ボランティア活動については今後の参加者数の拡大に期待したい。 オーストラリア研修への参加希望者が増え広がりが出てきていることは評価できる。また、今年度から始めたスポーツ（サッカー）と国際交流を融合させた取組については、その成果に期待したい。 また、３月に生徒に配付した「三国丘の推薦図書」などを有効に活用し、読解力の育成そして原理原則をもった人材の育成に努めてもらいたい。	A
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	違いを認め共に生きる力 （異文化国際理解）	充実	海外スタディツアーや 海外サイエンスツアー等の充実 海外生徒との交流や 留学生の受け入れ	スタディツアー参加人数 サイエンスツアー参加人数 留学生受入れ人数 交流受け入れ人数	30人 8人 5人 ５０人	３０人 6人 １０人 ５０人	30人 6人 1人 102人	A	スタディツアー応募者数 アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見） 留学生受入れ人数 交流受け入れ人数	45名 100% （サイエンスツアー） 5人 ５０人	45名 100% １０人 ５０人	71名 100% 1人 102人	A	充実		
			違いを認め共に生きる力 （ボランティア活動 地域交流活動）	新規	地域ボランティア活動への参加	三国丘幼稚園世代間交流 「なかよし広場」の参加人数 地域中学校と連携した 科学教室の実施	１２人 新規	３０人 ３０人	37人 29人 （理科系 ４クラブで 実験等指導）	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的感想） アンケートや感想による参加者の評価（肯定的意見）	新規 新規	大半 ８０%	大半 100%	A	継続		
			健康・体力 協調性と豊かな感性	充実	部活動の振興と学校行事の充実 芸術家派遣事業の実施	部活動加入率 学校行事（文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会）実施 学校行事１・２年全員の参加	96% 全て実施 全員参加	95% 内容充実 全員参加	95% 全て実施 全員参加	B	大阪府代表や近畿全国大会への参加出場件数	7件 （陸上部、剣道部、山岳部スキー部門、水泳部、弦楽部、美術部、チェロ、ピアノ）	5件	7件 （陸上部3件、柔道部、硬庭の5件の近畿大会、空手部アジアチャンピオン、空手部インターハイ）	A	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	高い志を育み進路実現を果たす	充実	社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や「三丘カレッジ」の実施充実 東京方面サイエンスキャンパスツアー、大学１日訪問、医療インターンシップの実施	卒業生活用講座の開催回数 サイエンスキャンパスツアー参加人数 大学１日訪問参加人数 医療インターンシップ参加人数	三丘セミナー13回、 三丘カレッジ8講座 新規 １７２人 ８２人	25回 30人 50人 50人	28回 50人 132人 82人	A	難関国公立大学10大学（旧７帝大、神大、市大、府大）への進学者数 （現役進学者数）	１９９人 （１２２人）	１８１人 （１１２人）	１７５人 （１０３人）	B	継続	これまで多くの著名人を輩出してきた伝統と同窓会・後援会にも支えられ、難関国公立大学へも多くの生徒が進学している。 大学や社会の最先端に触れさせる「三丘セミナー」、医療機関でのインターンシップや大学研究室訪問など、生徒に「本物を知る」機会を与えていることは評価できる。 規範意識の醸成のため朝の挨拶奨励やリーダー研修に取り組んでいることは評価できるが、遅刻人数は昨年度より微増しているため、生徒の意識をかえるための継続した働きかけをしてもらいたい。	A
			規範意識	充実	遅刻指導の徹底 朝のあいさつの奨励 リーダーズ研修の実施	生活指導部による校門指導 リーダーズ研修の実施回数	日常的に指導 5回ごとに生活指導部で個別指導 2回	日常的に実施 2回	日常的に実施 8回	A	1日1クラスあたりの遅刻人数 （各学年1日当りの人数）	0.5人 （4人）	0.5人未満 （4人未満）	0.62人 （4.96人）	B	継続		
		教員の指導力向上をめざす	授業力向上	充実	授業評価や授業公開実施 ＩＣＴ機器（プロジェクタ等）を活用した授業の研究 他校で実施される研究授業への積極的参加 民間教育産業等との連携によるスキルアップ研修参加	授業評価実施回数 授業改善シート提出 授業観察フィードバック 授業公開実施回数 研究授業・協議実施回数 他校等での研修の参加人数	1回 全教員 全教員 3回 4回 15名 （他校10名、予備校5名）	2回 全教員 全教員 3回 4回 15人	2回 （6、11月） 全教員 全教員 3回 4回 68名 （他校38名、予備校30名）	A	授業アンケートによる授業満足度	77%	80%	87%	A	充実	授業アンケートを２回実施するとともに、改善シートによる振り返りのシステムを導入するなど、授業改善に取り組んだことにより、生徒の授業満足度が大きく向上したのではないかと感じる。 また、首席を中心にベテラン教員を講師とした新任教員に対する校内研修や、他校や予備校への授業研究への参加などの取組は評価できる。 来年度は、後援会の支援により全教室に設置される電子黒板機能付きプロジェクタの活用を広め、学校全体の「質の高い授業」につなげてもらいたい。そのためには、教員のさらなる意識改革が求められる。	A
			進路指導力向上	新規	進学指導研修、業者模試研修、センター試験分析研修の実施	新旧３年担任を中心とした進学指導研修 各学年業者模試実施後の研修回数 センター試験分析研修	実施 3回 実施	実施 3回 実施	実施 4回 実施	A	難関国公立大学10大学（旧７帝大、神大、市大、府大）への進学者数 （現役進学者数）	１９９人 （１２２人）	１８１人 （１１２人）	１７５人 （１０３人）	B	継続		
			初任者転入者に対する指導力向上支援	継続	校内研修の実施	研修実施回数	3回	3回	5回	A	初任者、転入者に対する授業アンケートの肯定的回答率の向上	新規 （満足度は82%）	2%	2.7% （7人、 ①87.6%、 ②90.3%）	A	充実		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価	「英語力と国際感覚」「理数力」「メンタリティ」の３つの教育の柱をもとに、校長が学校運営を進めている。特に、英語力については、いち早くＴＯＥＩＣやＴＯＥＦＬの講座を開設し、ＴＯＥＩＣ　ＩＰに１６６名、ＴＯＥＦＬjuniorに４３名が受験するなど、その取組成果は高く評価できる。また、卒業生による講演会「三丘セミナー」や在校生と卒業生の交流「進路語り部」といった企画により、生徒たちへの学習意欲、進路意識を喚起するなど、卒業生を活用した志を育む取組が充実している。授業力についても、生徒の授業満足度が前年より１０%も上昇しており、校内研修や民間教育産業の研修による成果が表れているといえる。 今後、教員の入れ替わりが激しくなる中、教員が組織として今の取組を共有し、運営することが必要であろう。とりわけ、教科指導については、高校３年間を見据えた教科指導方針を策定するなど、これまで三国丘高校が積み上げてきたものを可視化し、さらなる伝統と実績を積み上げていってほしい。	A

平成２４年度評価シート（府立岸和田高等学校）

自己評価の基準	A … 目標以上 B … 概ね目標通り C … 目標以下	評価審議会評価の基準	AA … きわめて高い成果をあげている A … 成果をあげている B … 取り組んでいるが工夫改善の余地がある C … 取組の見直しが必要である

資料３－４

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	各学校独自の取組	確かな学力の向上を図る	言語活用力 ＩＣＴ活用力	充実	英語運用能力・プレゼンテーション能力および科学的リテラシーの向上	岸高インテンシブ英語研修 修学旅行事前学習発表会	８３名 9本	１２０名 各クラスより 1本以上	124名 （夏51名、 冬73名）	A	双方のアンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	60%	70%	80%	A	継続	土曜日を有効に活用する特進ゼミや指名補習、ほぼ年中開室する自習室など、生徒に学習の場を提供し、面倒見よく指導しているところが岸和田の特長であり、高く評価できる。 希望者を対象にオールイングリッシュで行う英語研修は、参加者数・生徒の評価ともに高くなっており、取組の充実ぶりが感じられる。 また、進学実績の向上をめざし、常に取組の精査と改善を進めている点も評価したい。平成２５年度から、家庭学習量増加をめざし家庭学習ノートを導入するほか、朝読も実施するとのことで、それらの成果にも期待したい。	ＡＡ
			学習習慣の定着	充実	土曜の午前活用の活性化	特進ゼミ（土曜講習）、千亀利セミナーの参加者 課題研究発表の実施回数	１８５名 新規	４００名 2回	４２０名 （1,2年文理320名＋普通100名） 2回 （9、1月）	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	75%	80%	80%	A	充実		
		豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	違いを認め共に生きる力 共感力 協調性	新規	人間関係づくりと豊かな人間性の涵養 人権ＨＲ、校長講話	オーストラリア語学研修 岸高祭（文化祭、体育祭）の芸能部門の観客動員数	新規 ２８００名	15名 ２４００名	30名 2500名 （案内3000枚）	B	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	90%	80%	８８％ （ほぼ全員が肯定的な評価	B	継続	オーストラリア語学研修や台湾修学旅行のほか、韓国からの生徒受け入れを積極的に行うなど、国際交流の取組を拡大している。 オーストラリア語学研修では、８回の事前学習（スカイプを使っての現地家族との会話）をさせ、生徒にとってより有意義な取組とすることで評価も高いのではないかと感じる。 ３年間の取組を人材育成の観点から整理した「岸高人材育成プログラム」は、実施する目的をより明確にするもので、すばらしい。また、グループ討議による教員の意見を踏まえ毎年改善している点も評価できる。今後、このプログラムを広く発信し、岸高のすばらしさをもっとアピールしていってもらいたい。	A
			健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動の振興と学校行事の充実	クラブ加入率 鍛錬遠足時間内完歩率	96.3% 鍛錬遠足は雨天のため実施できず	９５％ ９５％	96.8% ９８％	A	加入率や参加率 アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	90%	80%	生徒の感想はおおむね良好	A	継続		
		高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	進路実現 高い志	充実	夢、希望、高い志をもたせる講演などの企画 主要大学ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽへの参加促進	東大方面大学合格者数 現役国公立大学合格者数	9名 １１５名	10名 120名	16名 （現役4名） 124名	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	１００％ （聞取調査）	85%	80%	B	充実	難関大学合格を期待できる生徒もいるが、現役志向・地元志向が強い（校長談）現状の中、生徒の意識改革と学習意欲の向上をめざし、東京大学、京都大学はじめとした大学訪問や大学教員による出張講義などを行っており、今後の成果に期待したい。 朝の挨拶運動や地域とも連携した清掃活動を行うなど、規律・規範の確立に取り組み、特に保護者からは高い評価を得ている。	A
			規範意識	継続	自分を大切にし、他の人も大切にする心の涵養と規律・規範の確立 清掃ボランティアの実施	登校指導日数 校長挨拶運動従事日数	４７日 ほぼ毎日	15日	100日	B	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	80%	70%	80.3% （保護者は91.1%）	B	継続		
		教員の指導力向上をめざす	授業力向上	継続	生徒の授業アンケート年2回実施 教科別公開授業週間の設定	管理職による授業見学時間	新規	１００時間	１０５時間	B	授業満足度 （授業アンケート）	75%	76%	84%	B	継続	授業アンケート項目を見直し学校全体での授業改善の気運を高めるとともに、管理職による授業見学を通した改善指導などにより、授業満足度が大幅に上がったのではないかと考える。 今後も管理職のマネジメントを交えながら、教育活動の中で教員の指導力を高める取組を進めてもらいたい。 地域の力、卒業生、学校周辺の環境など、岸高独自の資源をうまく活用し教育活動に活かしているところには感心する。タブレットを解体新書の教材づくりにうまく活用していたことにも驚かされた。	A
			教材開発	充実	学習コンテンツの開発	ＳＳＨによる教材開発本数 （セレンディピティ、探究、国際総合、課題研究）	セレンディピティはほぼ完成したが、その他は開発途上	５本	２０本 （生徒による「解体新書」の電子書籍化など）	A	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	75%	75%	79.7%	A	充実		
	共通の取組		総合的な学力の測定、読解力・科学的リテラシー、英語運用能力、進路実現、進学実績														資料４～資料７　参照	

総合評価	１０校の中でも、とりわけ地域からの信頼が非常に厚い学校であり、学校もそれに応えるように、生徒への面倒見がよく、手厚い教員のサポート体制を整えている。また、地域柄、生徒・保護者とも地元での進学希望が強い中、東京大学や京都大学等への大学訪問・出張講義や国のスーパーサイエンスハイスクール事業での他校への研究発表訪問など、外部との交流も積極的に行っている。さらに近年は、台湾への修学旅行やオーストラリア語学研修などの機会を与えるなど国際交流にも力を入れており、このような学校の姿勢が、生徒たちの視野の拡大につながりつつある。 授業アンケートによる授業満足度も伸びており、これも「岸高人材育成プログラム」が教員、そして生徒にも浸透してきた成果といえよう。今後は、新たに作られた「プロジェクト２５」において、進学実績の向上や岸和田高校の進む方向性などについて議論を深め、岸和田高校のさらなる進化を期待したい。	A